

〔執筆者紹介〕（掲載順）

松岡 資明（まつおかただあき） 元日本経済新聞社編集委員
加藤 丈夫（かとう たけお） 独立行政法人国立公文書館長
鳥谷 容子（しまたに ようこ） 鳥取県立公文書館係長
伊藤 康（いとう やすし） 鳥取県立公文書館専門員
田中やよい（たなか やよい） 鳥根大学附属図書館（図書職員）

〔編集後記〕

第一〇号を刊行する運びとなった。創刊号が平成一七年一月の刊行であったので、およそ一五年かけての第一〇号である。専門員の減などで第七号から隔年の刊行としたこと、一回分飛んだことで、それだけの歳月を要した。創刊号から関わってきた者としては、感慨深いものがある。

さて、今号は、平成三〇年九年に開催した「明治一五〇年特別企画展記念講演会」の講演録をまず掲載した。隔年刊行のため、時宜を失ったことが気にかかるが、快く掲載のご許可をいただいた、加藤館長、松岡様には改めてお礼を申し上げたい。平井知事の挨拶とともに、充実した講演会であったことがお分かりいただけるものと思う。

当館鳥谷係長の事例報告は、評価選別の実務を担う立場から生み出されたものである。公文書管理条例を有する鳥取県であるが、それ以

後、条例に則した評価選別を行ってきた。さらに平成三〇年度の見直しに伴い、より合理的な評価選別が行われるようになってきた。その過程と現状が平易に紹介されており、参考にしていただけるものと確信している。

当館旧職員である田中氏には、第八号、第九号に引き続き、鳥取大地震に関する論考を頂戴した。『鳥取県震災小誌』が「総力戦のための災害アーカイブ」であることを、引用史料等から導き出すことを目指したが、研究途上とのことである。今後の研究活動に期待したいところである。

あらためて、執筆等を賜りました各位にお礼申し上げますとともに、読者諸賢のご高覧をお願いします。（伊藤ヤ）

鳥取県立公文書館研究紀要 第一〇号

令和二（二〇二〇）年三月二十七日 発行

編集・発行 鳥取県立公文書館

〒六八〇一〇〇一七

鳥取市尚徳町一〇一

TEL〇八五七―二六一八一六〇

印刷 有限会社タクミコーポレーション